

市民協働でつくる まちづくりの拠点 ワークショップ



vol.0 「事前勉強会」

9月2日 茶づな

宇治市は、中宇治地域における新たな市民の拠点づくりを市民協働によって進めていきます。9月下旬から全3回行われるワークショップに先立って、9月2日に事前勉強会が行われました。公民連携による公共施設の再生やパブリックスペースの創出に多様な経験をもつ菊地マリエさんによるレクチャーをはじめとして、宇治市市民協働推進課・今儀による中宇治地域のこれまでの活動の紹介、そして菊地さん、宇治市出身・在住の建築家寺川徹さん、今儀による鼎談が行われ、市民協働による事業の進め方について参加者の理解を深める機会となりました。最後に、拠点にふさわしい場所をイメージしながらまちあるきを行いました。

公民連携の仕組みとデザイン

最初に、菊地さんより「公民連携の仕組みとデザイン—公有地を活用した交流空間の創出事例と手法—」というテーマでレクチャーをしていただきました。前半では、公共施設の更新をめぐる、国内の多くの自治体が抱える課題について、わかりやすい解説がなされ、その解決のための手法として、公民連携の可能性について述べていただきました。今回の拠点づくりは、公共施設をつくる4つのステップ（方針策定、設計、施工、運営）のうち、方針策定の段階から市民協働によって進めようというもので、設計以降に民間が主体となる

既存の枠組みよりもさらに発展した試みであるといえます。そこで、後半では、方針策定段階から市民協働によって行われた事例として、岩手県紫波町のオガールプロジェクトを紹介いただきました。町民による提案から始動したこのプロジェクトが地域に定着するまでのプロセスや、収益性を確保するための具体的な手法まで説明いただき、今後の拠点づくりの参考となりました。

これまでのまちづくり活動



続いて、市民協働推進課の今儀より、中宇治地域のこれまでのまちづくり活動について紹介させていただきました。住民の方々や京都文教大学の取り組みによって交流の起点となる場所ができ、波及的効果が生まれてきています。また、中宇治地域は宇治市の「子育てにやさしいまち実現プロジェクト」のモデルエリアとなっていますが、子育て世代に優しいまちはほかの世代にも優しいまちであってほしいとして、それを実現するための市民協働推進課の取り組みとして「まちのリビング創出促進事業」の紹介を行いました。つながりやきっかけづくりの場と機会を、市民協働によって生み出していきたいという思いを伝えました。



2023年9月2日
13時30分～16時30分
会場：お茶と宇治のまち歴史公園 茶づな
参加者：49名
【レクチャー】
菊地マリエ（公共R不動産）
今儀妙子（宇治市市民協働推進課）
【鼎談】
菊地マリエ・寺川徹・今儀妙子



鼎談

市民協働の可能性について

勉強会の後半では、菊地さん、寺川さん、今儀の3名で、中宇治地域の市民協働の可能性について鼎談を行いました。寺川さんは、建築家としての仕事の傍ら地元の小学校の活動にもかかわる中で、他人任せではなく自分たちの力で子供たちのためにできることを考えていかなければならないという思いに駆られたといいます。子育て中の菊地さんは、「子育てによってまちづくりへの当事者意識は増したのに、同時に自分の時間はとてもなくなくなってしまったというジレンマを抱えている。この勉強会のような場所にも、子育て世代が参加できる仕組みがあればいいと思う。」といったお話をされました。一方で、中宇治地域の観光地としての側面も見逃せません。菊地さんは今回のレクチャーに当たって、観光地というイメージの強い宇治で、観光と暮らしを一緒に考えていくことの難しさを感じたといいます。それに対し今儀は「コロナ禍が、人の暮らしを考える機会になった。今は観光業も戻りつつあり、バランスが取れている状態だと思う。」と話しました。寺川さんは、「観光業に就いている地元の人もたくさんいるので、観光客が戻ってきてよかったと思う。しかし、これ以上増えるとオーバーツーリズムになってしまう。宇治はまだ大丈夫だが、京都市の東山地域では、渋滞により救急車の到着が遅れるなど、住民の生活が脅かされている。」として、今後も生業と観光のバランスの取れた地域であり続けたいと語られました。暮らしという部分に踏み込んで住宅の話題になり、今儀からは「空き家の数は多いのに、新たに住みたいと思う人たちに提供できる住宅のストックが極めて乏しいという現状。中宇治地域に住みたい

人はたくさんいる。新たな拠点を考えるうえでは、住まいなど地域の課題についても合わせて考えていかなければならないのでは？」という問題提起がありました。菊地さんは「住みたいと思う人がたくさんいるのが強み。ぜひ、地元の、想いがある主体によって住まいも運営されてほしい。」と応じられました。市民協働による拠点づくりの意味、中宇治地域のポテンシャル、実際につくっていく際に考えるべきポイントなど、示唆に富んだ鼎談となりました。

中宇治まちあるき

最後に、2つのグループに分かれてまちあるきを行いました。地元の方でもあまり通ることのない道もルートに組み込まれており、まちの新たなポイントに驚かれる参加者の方もいらっしゃいました。また、まちあるき中は参加者の方も思い思いに言葉を交わしており、「新しい場所づくりに積極的に参加したいと思う。」



子育て世代が来られる場所にするなら、車での来やすさは重要な要素ではないか。」「ぐるっと遠回りしなければいけない場所は拠点にふさわしいのだろうか。」などの声も聞かれました。まちあるき中に気づいたポイントはシートに書き込んでいただき、主催者で回収しました。参加者の気づき、まちへの思いが今後のワークショップを、そして新たな拠点を形作っていくこととなります。



まちあるきルート



今後のワークショップ予定

09.24 13:30~16:30

#1 「活動」について考える

10.21 13:30~16:30

#2 「場所」について考える

11.18 13:30~16:30

#3 「しくみ」について考える

申し込みはこちら→



市民協働でつくるまちづくりの拠点
ワークショップ事前勉強会 | 中宇治地域
主催：宇治市市民協働推進課
発行日 2023.09.08

